

監修：矢萩大輔 (有)人事・労務 代表取締役
無料農業支援ポータルサイト
「われらまちの農縁団」
<http://social-jinji-roumu.com/farming/>

今回の執筆者 **矢尾板 初美**



(有)人事・労務パートナー行政書士 / 903シティファーム推進協議会委員長。明治学院大学国際学部卒業後、総合物流会社を経て行政書士として独立。法人設立や事務局サポートなどコミュニティ創りを支援している。2020年より東京浅草でコミュニティカフェをスタートさせた。

新しい直接流通のかたち「CSA」のすすめ

今回のキヤスト 社長 藤田 匠、社員 西園寺 千代

地元スーパーなどへの納品だけでは頭打ち感を抱きはじめて藤田社長。次の一手としてCSAに興味が出てきた。日本での普及はこれからのようだけど……。

藤田 千代ちゃん、今朝の青年部の特別講義で、CSAっていう仕組みを教えてもらったんだけど、知ってる？

千代 私、以前からすごく興味があつて調べていました。地域支援型農業のことですよ。先払い形式で、農家にとってもありがたいし、消費者にとっても、生産プロセスに関わり、協働体験ができることが新しさだと思っています。

藤田 詳しいね。
千代 学生のころから興味があつて、フランスに留学していたときも、AMAPに加入している有機

農家のところでアルバイトしてました。AMAPは、フランス版のCSAの全国組織みたいなイメージですね。

藤田 なら話が早い。今朝の話を聞いて、うちもそろそろCSAにチャレンジしてみてもいいのかなと思つたんだよね。地元のスーパーへの小規模流通だけだと頭打ちだと感じていたし、次の一手は直接流通だなと思つていたから、せ

農家と消費者が相互に支え合う仕組み

「CSA」という言葉を聞いたことはありますか。Community Supported Agriculture。「地域支援型農業」と訳されることが多いようです。

先日、あるCSAのプラットフォーム立ち上げをサポートさせていただきました。長野県に本拠を置く気合同会社で、この3月に設立されたばかり。出資者82名、消費者や農家などが名を連ねています。出資金は1口1万円から100万円まで、計580万円。定款には、出資額にかかわらず1人1票の議決権を持つと定められてい

つかく消費者と直接やりとりするのなら、コミュニティを実践してみたいなって、今日の話で感じたんだよ。

千代 私もぜひお願いしたいです！生産も安定してきたとはいえ、やはり夏場と冬場の生産量の差はありますし、採用面などを考えても地域での露出はもっと増やすべきだと考えていました。とりかかるにあたり、注意点をまとめたものがあるので、ご覧ください。

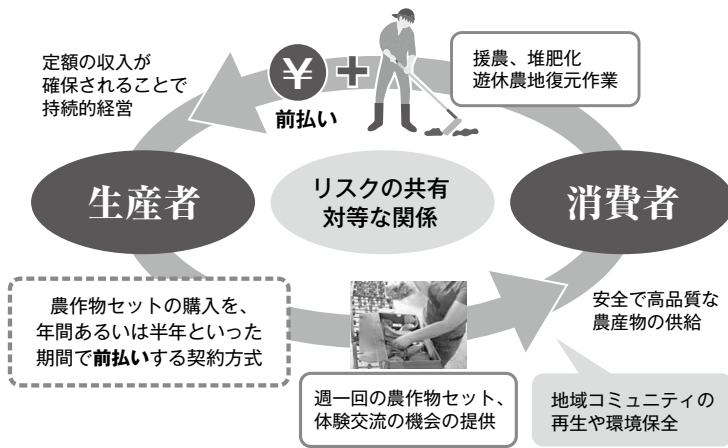
ます。農家と消費者をつなぐCSA事業を中核として、さまざまな関連事業をこれから進めていくとのこと。

皆で支え合い、皆で命をつないでいく。「食」だけにとどまらず、我々一人ひとりの在り方の変革。生産者と消費者の意識の変革を、間近で実感しました。

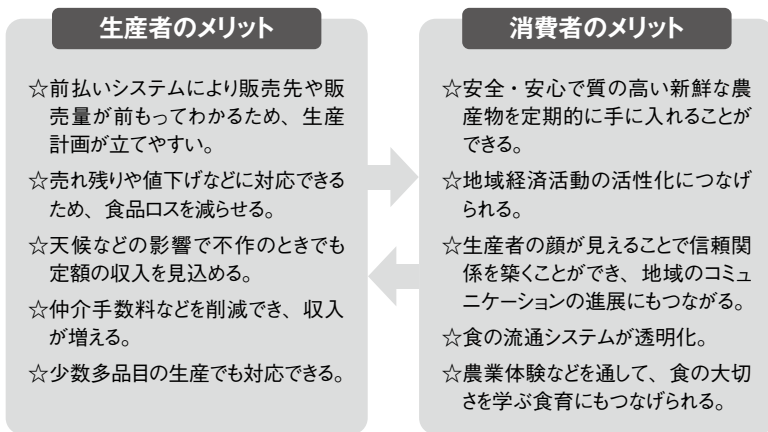
消費者と対等の関係でリスクを共有する

生産者の高齢化、農業人材の不足を抱える農業界。そして「食の安全」「質の高い食」など消費者

■ CSA (地域支援型農業) の仕組み



図出典：農研機構「CSA（地域支援型農業）導入の手引き」より



■ CSAの基本は農産物の売買契約

一般的に以下のような取引条件を契約書の中で定めます。

- ① 取引する商品**
消費者の意見を取り入れた栽培作物の決定など、コミュニティを意識した農産物の選定を行なう。
- ② 取引する量**
1回あたりの引き渡し量や最低引き渡し量を設定する。
- ③ 売買代金**
- ④ 売買代金の支払い方法**
- ⑤ 商品の引き渡し時期・方法**
生産者が特定の場所を指定し、消費者が野菜を受け取りに来るスタイルなど、必ずしも定期宅配を約するものではない。コミュニティに合った、独自の販売・流通スタイルを考えていく。
- ⑥ 所有権の移転時期・危険負担**
- ⑦ 商品に瑕疵・問題があった場合の取り扱い**
引き渡し量が一定の基準に満たなかった場合の取り扱いを定める。
- ⑧ 契約期間**
3カ月間ごとの自動更新、1年ごとに更新意思を確認するなど
- ⑨ 契約の解除**
- ⑩ 義務違反時の損害賠償**
- ⑪ 裁判となった場合の管轄**

の食への価値観が変化する現在。農業・生産プロセスに多様な人材が参画できる試みとして、CSAが注目されています。まずは主な特徴を挙げておきましょう。

① **前払い制** 安心して、生産に勤しむことができます。

② **定量的お届けを保証する契約ではない** 自然の恵みで育つ農産物、天候に左右される農業の在り方自体を支える仕組みです。

③ **協働体験が大きな価値になる** コミュニティのメンバーだからこそ、生産のプロセスに携わることが出来ます。例えば、田植えや稲刈り、種まきや収穫に際して、消費者が農場に向く機会が設けられています。CSAは、生産者と消費者が連携し、前払いによる農産物の契約を通じて相互に支え合う仕組みです。アメリカで1980年代に最初に始まったとされ、現在では、

スイスのACP、フランスのAMPなど、CSAに相当する活動が各国で見られます。農作業や出荷作業などの農場運営に消費者が参加する特徴を持ち、生産者と消費者が経営リスクを共有し、信頼に基づく対等な関係がそこにあります。CSAは、その農家が目指す農業と、それに賛同する消費者の共感・協力によって成立します。したがって、消費者や協力者に営農

のコンセプトをきちんと示しておく必要があります。例えば、落ち葉や竹チップなどを活用した資源循環型農業とか、固定種・在来種を用いた有機農業などなど。従来なら消費者のままであった多様な人材が、農業の担い手や支援者となる消費者参加型の農業。持続可能な経営と食料生産を実現するための仕組みの一手として、CSA導入を検討してみたいかか